

ありたいNACSをつくる2021年に

副会長 大石美奈子

昨年創立32年を迎えたNACSでは、会員の皆さまのご理解・ご協力、そして工夫のもと、2020年度に予定している事業が概ね順調に進捗しています。改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、私たちは「新しい生活様式」などこれまで経験のない日常生活を送っています。この危機を乗り越えるために、今後どう行動すべきか、どのようなことに取り組むべきか、大きな課題に向き合っているといえます。

消費者問題では、コロナ禍でネット社会がさらに進み、その結果インターネットを介したトラブルがこれまで以上に複雑で深刻なものとなっています。少子高齢化がますます進むなか、労働力不足問題にAIやIoTなど新しい技術で対応する必要がありますが、ネット社会の利便性と危険性を理解することで消費者問題を未然に防ぐことも求められています。また、来年に迫った成年年齢引き下げに向けて、小中高それぞれの段階に応じた消費者教育を学校と連携して進めていくことは、NACSの消費者教育の大きな柱であることに変わりなく、Web教材の充実にも努めていきます。

また、昨年10月の所信表明で菅首相は「2050年カーボンニュートラル」の宣言を行い、再生可能エネルギーの主力電源化、石炭火力のフェードアウトなどエネルギー政策も大きく方向転換しつつあります。脱炭素に向けては消費者も、資源循環や省エネ・再エネなどの視点からエンカル消費を進めることや、カーボンフットプリントを考慮した食生活や暮らし方、移動手段の見直しなどが求められており、NACSからこれらの新しいライフスタイルを積極的に提案していきたいと思っています。

NACSは、様々な専門知識を持った消費生活の専門資格保有者から成り立っています。また、企業や行政、消費生活相談員など様々な背景や多様な問題意識を持つ会員が集まっている唯一の団体と言っても過言ではありません。

多様な考えを持つ会員が相互に協力し、今直面している上記のような様々な社会問題に取り組むことは、NACSに課せられた社会的な役割でもあると確信しています。

一方で、既に創立から30年を超え、我々を取り巻く環境も大きく変化しています。会員がNACSに所属することでやりがいや誇りを持ち、また、新しく入会したいという人が増えるなど、社会でのNACSの存在価値を高めるためには、NACS自身の改革が必要と考え、昨年6月の総会后、NACSのありたい姿とそのための施策策定のために「あり方検討委員会」を立ち上げました。現在、風見委員長のもとで、具体的な活動が現在進んでいます(次ページを参照ください)。

今後の議論を経て、今年の総会を目途に、お示しできればと考えています。皆さまとともに、より良いNACSづくりに取り組むそんな2021年にしたいと思いますので、変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。

本部委員会体制の改革について

副会長 永沢裕美子

「NACSの強みは？」と聞かれて、何とお答えになりますか。おそらく、多くの方が「全国展開」と「専門性」を挙げられるのではないのでしょうか。NACSはこの2つの強みを十分に発揮することができてこなかったとの反省に基づき、昨年6月以降、本部委員会体制の改革にまずは着手しています。ここでは、その改革の一部をご報告いたします。改革は道半ばです。会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

※消費者教育委員会：東日本支部の研修委員長が本部消費者教育委員長を兼務し、7支部の研修委員会が連携してNACSの消費者教育(社会人対象)を担う体制に変更しました。オンライン会議を活用し、支部の枠を超えて、専門性の高い啓発講座を会員だけでなく地域や職域に提供することを目指します。また、教材開発等を担う「企画・支援チーム」を、東日本、中部、西日本の3支部から支部長推薦により8名を選任して組織しました。次年度は他支部からも選任する方針です。関心のある方は支部長にお問合わせください。

*学校講師派遣は副会長所管とし、学校からの応募を本部で受け付け、支部長等と協議して派遣講師を決定しています。

※食生活委員会：西日本支部に活動拠点を移しました。食生活アンケート調査の他、食品ロス削減に役立つレシピの開発等を行なっています。こうした取組みが評価され、消費者庁の食品ロス削減ガイド作成検討委員会への参画が決まりました。

※ICT委員会：「ICTに強いNACS」を目指し新設した委員会です。2018年度からICTリーダー育成事業を全国展開していますが、その教材開発に中心的に関わってきた東日本支部の自主研究会メンバーが本委員会で活動しています。

※金融委員会：「金融教育ならNACS」と指名されることを目指し新設しました。支部長推薦に基づき、7支部で合計21名を「金融教育リーダー」として選任しました。金融広報アドバイザーを委嘱されている方をリーダーに選任しています。該当する方は支部長にお申し出ください。

最後に、今年度、消費者庁からエンカル消費の指導者向け資料作成事業を、地方自治体から念願の見守りサポーター養成講座を受託することができました。本部としては、こうした行政からの事業受託や連携を積極的に推し進め、「地域社会で貢献するNACS」を目指していく方針ですが、そのためには、本部が会員の皆様と繋がること＝会員情報(特にメールアドレス)の保有が不可欠です。会員活動プラットフォーム(KKP)への登録・更新をよろしく願いいたします。詳細は裏面をご覧ください。

NACS のあり方検討委員会について

NACS のあり方検討委員会 委員長 風見一之

昨年6月に開催された第10回定時総会における議決を受け、7月からNACSのあり方検討委員会の活動がスタートしました。

本委員会の活動の概要についてお知らせしたいと思います。

はじめに、本委員会ではNACSの内部と外部の課題を深堀し、ビジョン、ミッション、つまりありたい姿の検討を行うことを目的としています。図1.に示したように、ビジョンは組織としての将来のありたい姿を、ミッションは目指すビジョンのための使命や目的、存在意義を、そしてバリューはミッション遂行のための具体的な指針や価値基準を示しています。まさに組織としてのありたい姿とそのための施策等を定めるための手段となります。

NACSは2018年に創立30周年を迎えています。この30年の間に社会環境は大きく変化し、その流れはますます加速している状況にあります。このような外部要因に加え、NACSにも様々な内部の変化要因があることを受け、NACSとしての今後の目指す方向性を改めて検討することが本活動の趣旨となります。

さて、会社の寿命は30年ということを知られたことがあるかと思いますが。これは日経ビジネス誌に1983年に掲載された調査結果によるものですが、これに加えて2014年度に、同じような調査として、「倒産企業の平均寿命が23.5年であった」というものもあります。これらは企業を対象としたものであり、事業のライフサイクルが関係しているものと考えられますが、その背景には市場の状況を含む環境の変化が影響しているものともできると思います。

「変化できたものが生き残ることができる」は、「種の起源」で有名なチャールズ・ダーウィンの言葉であるとされていますが、事業や組織活動を長く継続するためには環境の変化に対応していくことの必要性をうたっています。

このような背景のもと、持続可能なNACSのあり方について検討するため、NACSを取り巻く外部環境と内部状況を分析し、NACSとしてのありたい姿を構築することが本活動のテーマとなります。

図2.に示すように、本活動ではまずはNACSの現状を理解するために、代表理事である会長や副会長、そして複数の支部長の方々への執行部インタビューと、代議員の方々へのアンケート、更には関連する団体や賛助会員企業を対象とする外部ヒアリングを実施することとし、これらの作業は昨年11月末に終了したところです。この活動によってそれぞれの立場からNACSの現状をどのように考えているか、どのように見えているか等の基本的な情報を収集しています。その結果を受けて自己分析、評価を行い、併せて外部環境の検討を行い、ありたい姿を導出するという流れで検討を進めていくこととなります。図3.にはスケジュール感を示しています。実際の活動に際しては、それぞれの作業をワーキンググループにおいて実施するという形をとるようにしています。また、活動期間は今年の6月までとし、立案されたビジョン、ミッションについては、今年5月の理事会へ答申することを予定しています。活動期間における途中の段階においても中間報告の形で都度報告とすることとしていますので、会員の皆様に対しても活動状況について本誌やホームページを通じて共有させていただければと考えています。

これまで多くの事業創出や事業支援を行ってきた経験、知見を活かし、良い成果が得られるように活動を進めていきたいと思っています。

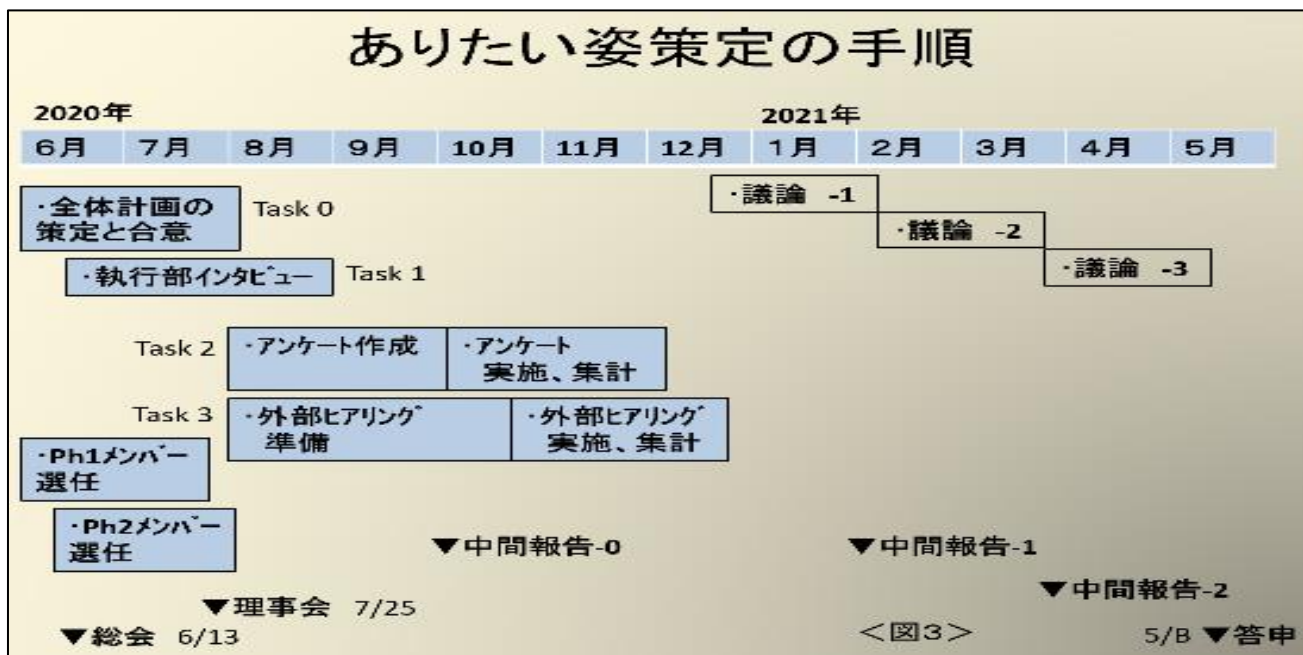
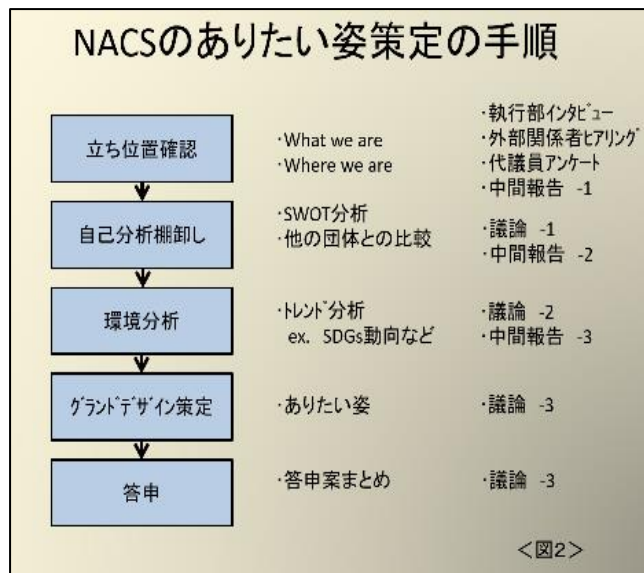
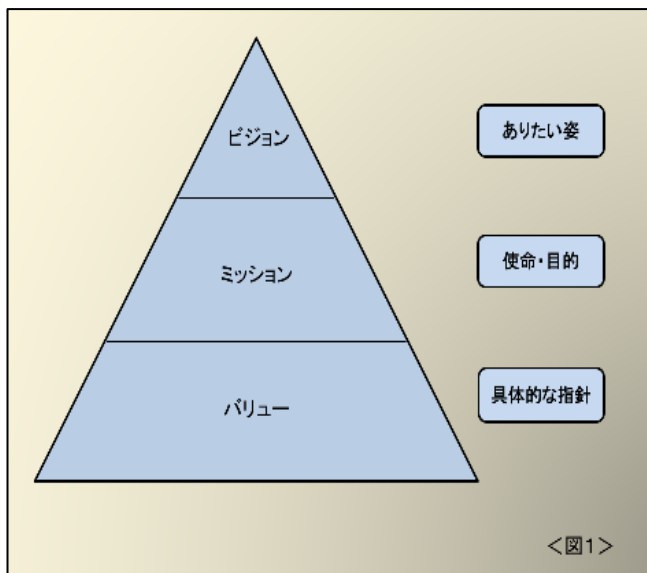
本活動への皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

「NACSのあり方検討委員会」の活動状況は、随時ホームページに掲載いたします。

以下のURLにアクセスしてご覧ください。

(会員専用ページ) https://nacs.or.jp/kaiin_senyo/

■ユーザー名：kaiin_room ■パスワード：nacs01



<委員会メンバー：NACS 正会員で構成されています> (◎委員長：○チームリーダー：*代議員)

あり方検討委員会メンバー (Ph1、Task1 執行部インタビュー担当)	◎風見一之(代議員選挙管理委員会委員長、一般社団法人組込みイノベーション協議会副理事長、元㈱ニコン執行役員)・近藤幸直(定款等改正のための専門委員会委員長、㈱ディー・エヌ・エー社外監査役)・杉田努(監事)・ *南條武(理事[事務局担当]、前東日本支部支部長)・中山桂子(事務局)
Ph2 メンバー (Task2 代議員アンケート担当)	○*河村秀範(理事[消費者志向推進委員会担当])・*大井菜子(消費者相談室相談員)・ *小川浩一(西日本支部副支部長)・*田中美恵子(中国支部支部長)・ *中村秀一(神奈川分科会)・*松本恭子(Consumer ADR 委員会委員長)
Ph2 メンバー (Task3 外部ヒアリング担当)	○*南條武(理事[事務局担当]前東日本支部支部長)・*青木裕佳子(東日本支部支部長)・ *安達俊明(神奈川分科会代表)・*河嶋信子(理事[事業委員会/福祉サービス評価特別委員会担当])・村上千里(環境委員会委員長)・*山地理恵(消費者教育委員会委員)

事務局から会員みなさまへ

理事(事務局担当) 南條 武

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

「本部事務局」の紹介をさせていただきます。

渋谷と言えば「グルメの街」ですが、事務局員は高級料理には目もくれずランチタイムには安くて美味しいお店を見つけています。私も仲間に入れてもらって楽しんでいます。

主な業務は

- ① みなさまの手元にニュースや会報を正しく送るために住所や連絡先をいつも最新にしています。引っ越しなどでは「事務局への一報」も忘れないでくださいね。
- ② 会費や事業収入は活動費用や管理費用に使われます。その支払い受け入れを行っていますが、全国会計担当者のサポート業務も大切な役割です。
- ③ 協会内外からの問い合わせ対応も大事です。公益社団法人として会員の活躍は、ここから広く社会に向けて羽ばたいています。

事務局からのお願い： みなさまの最新のメールアドレスを教えてください。
会員みなさまに有効な情報を速やかにお届けいたします。
併せて、KKPへの登録、更新も是非お願いします。

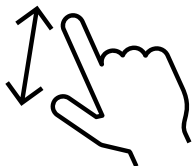
*件名：「メールアドレス登録」

*送信先； nacs-kaiin@nacs.or.jp (アドレス登録専用アドレス)

*本文：「会員番号(宛名シール右下の7桁の数字)」「氏名」「アドレス」を明記願います

*対象：全正会員 (KKPに登録済みの方も上記情報のみお知らせください)

KKP (会員活動プラットフォーム) に登録しましょう



申し込みは簡単です。NACSのホームページ <https://nacs.or.jp/> から最上段の右側「会員の皆さまへ」⇒「会員専用ページ」をクリックすると⇒会員活動プラットフォーム (KKP) ログイン画面が出てきます。

IDや初期パスワードを忘れた方は気軽に事務局までメールにてお問い合わせください。

NACSには社会から色々な分野の人材を求められています!!

例えば 消費者啓発・教育の講師や企業モニターの募集を行っています。また企業や業界団体との意見交換会や各種委員会への出席なども、多くはKKP登録者に対し依頼や募集を行っています。

情報配信も本部では「KKPニュース」「定款改正案意見募集」「講座案内」など4月から11月までに37件配信しています。また各支部独自のニュース配信等も随時行っています。

最近の講座はZoomなどを利用して開催していますので、全国どこでも受講できます。KKPではいち早く受講案内メールを配信していますので大変便利です。

現在は会員の1/3約700名が登録されています。KKPに登録して活躍の場と早くて広い情報を得ましょう。

各種問い合わせ先 nacs-jimukyoku@nacs.or.jp



電話：03-6434-1125

ホームページ：<https://nacs.or.jp/>